

第 52 回沖縄県高等学校野球新人大会

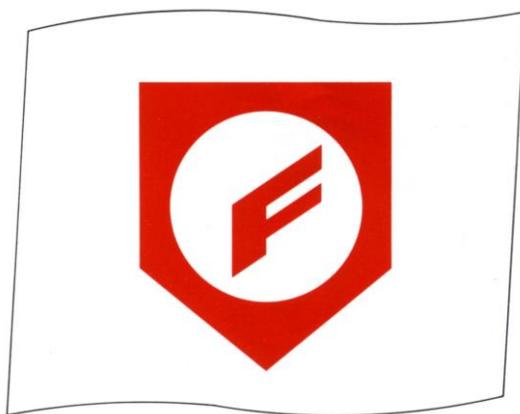
地区予選：令和 7 年 7 月 19 日（土）～ 8 月 3 日（日）

中央大会：令和 7 年 8 月 9 日（土）～ 8 月 13 日（水）

主 催：一般財団法人
沖縄県高等学校野球連盟
後 援：沖縄県教育委員会

会 場：(地区予選) 各 地 区 一 任
：(中央大会) エナジックスタジアム名護
Agre スタジアム北谷
オキハム読谷平和の森球場

大会要項



R7.7.14

一般財団法人

沖縄県高等学校野球連盟

第 52 回沖縄県高等学校野球新人大会 大会要項

主 催 : 一般財団法人

沖縄県高等学校野球連盟

後 援 : 沖縄県教育委員会

1. 大会期日
 - ①地区大会 令和 7 年 7 月 19 日 (土) ~8 月 3 日 (日)
 - ②中央大会 令和 7 年 8 月 9 日 (土) ~8 月 13 日 (水)

2. 会 場
 - ①地区大会 各地区一任
 - ②中央大会 エナジックスタジアム名護・Agre スタジアム北谷・オキハム読谷平和の森球場

3. 大会組織及び運営
 - ①沖縄県高等学校野球連盟に加盟している高等学校で参加申し込みをした学校代表チームによって行う。
 - ②地区大会は、各地区の理事が中心となって運営に万全を期す。
 - ③中央大会は、主催者で運営委員を構成し大会運営にあたる。
 - ④中央大会の大会役員は、総務委員会で適任者を選出し委嘱する。
 - ⑤中央大会には、第 107 回全国高等学校野球選手権大会に沖縄代表として出場した学校の新人チームを推薦校として出場させる。
 - ⑥地区大会・中央大会の審判委員は、沖縄県高等学校野球連盟審判部が担当する。
 - ⑦各地区理事は、地区大会終了後「地区大会試合結果」(全試合)を当連盟事務局(副理事長 町原 尚忠 宛)に報告すること。(用紙はA4サイズ、様式は自由)
 - ⑧地区大会運営費は、参加チーム数によって調整する。(一律の補助廃止)
参加チーム数×20,000 の補助をする。
 - ⑨中央大会における補助員は、中央大会出場校で行う。
 - ⑩地区大会においては、1 位校、2 位校を決定すること。(宮古、八重山地区は 1 校)

4. 表彰及び派遣
 - ①地区大会の表彰は行わない。
 - ②中央大会の表彰は、優勝校に賞状、優勝旗、優勝盾、**島田杯**を授与する。
準優勝校に賞状、準優勝盾、**荒井杯**を授与する。
 - ③上位 4 校は、9 月 20 日(土)から行われる第 75 回沖縄県高等学校野球秋季大会におけるシード校とする。準決勝で優勝校に負けたチームを 3 位、準優勝校に負けたチームを 4 位校とする。3 位校、4 位校は秋季大会抽選会において抽選を引く順番とし、ブロックやパートの指定は行わない。
 - ④優勝校を 8 月 25 日(月)、26 日(火)27 日(水)に石川県で実施する「第 9 回沖縄・石川親善高校野球交流試合」へ派遣する。**※都合上派遣できない時は、上位校を派遣する。**
 - ⑤上位 4 校の強化の一環として補助する県外派遣補助費は、今回は支給しない。

5. 参加申し込み規定
 - ①参加を希望する学校は、所定の選手資格証明書を 1 部作成し、地区評議員に提出すること。
 - ②地区大会における選手資格証明書の提出日は、各地区理事に一任する。
 - ③中央大会出場校は、野球競技者登録システム「野球ねっと」で大会申し込み申請を行い、システムから出力される選手資格証明書に学校長および学校医印を押印後、PDFデータ(カラー)として 1 部を沖縄県高野連事務局のメールアドレスまで、電子メールにて添付送信すること。
処理期限(大会申し込み申請およびPDFのメール送信)切
令和 7 年 8 月 6 日(水)抽選会まで。
 - ④各地区の中央大会代表校は 2 校とする。但し地区大会参加校が 4 チーム以下の地区と離島地区は 1 校とする。但し、第 107 回全国高等学校野球選手権大会出場校は推薦で出場できる。出場する場合は、試合日程も最後に組む。(地区は考慮しない。)
 - ⑤ 第 49 回沖縄県高等学校野球 1 年生中央大会優勝校(沖縄尚学)を推薦校として出場させる。(優勝校が選手権大会で優勝した場合は、準優勝校(北中城)とする)(地区は考慮しない。)

- ⑥選手登録変更 選手資格証明書提出後の選手変更は受け付けません。
 ※選手権大会出場校については全国大会後、登録選手の変更を認める。
 ※感染症にかかる選手変更は別途定める

6. 抽 選 会 ①地区大会 各地区一任
 ②中央大会 令和7年8月6日(水)午後2時
会場：コザしんきんスタジアム会議室
7. 開 会 式 行わない。
8. 閉 会 式 決勝戦終了後、優勝校、準優勝校の両校で行う。
9. 大会諸経費 ①中央大会は、入場整理券をもって充当する。大人 600 円・中高生 200 円
 ②中央大会で剰余金が生じたときは、本連盟運営費に繰り入れ不足の際は同運営費から充当。

10. 各地区加盟校と運営責任者

地 区	加 盟 校	運 営 責 任 者
① 北部地区 (8校)	辺土名 北山 本部 名護 宜野座 北部農林 名護商工 沖縄工業高等専門学校 エナジックススポーツ高等学院	比嘉 智二 (名護) 安富 大志 (北山)
② 中部北地区 (10校)	石川 前原 読谷 与勝 嘉手納 美来工科 具志川 中部農林 具志川商業 日本ウェルネス沖縄	上向 穰司 (日本ウェルネス沖縄) 喜舎場 正太 (具志川商業)
③ 中部南地区 (10校)	コザ 美里 北谷 普天間 美里工業 球陽 中部商業 北中城 宜野湾 沖縄カトリック	宮城 耕治 (中部商業) 嘉陽 宗大 (北 谷)
④ 那覇北地区 (10校)	浦添 首里 興南 西原 那覇工業 陽明 浦添商業 昭薬科大学附属 浦添工業 那覇国際	西銘 健一 (興 南) 大嶺 真 (浦 添)
⑤ 那覇南地区 (10校)	那 覇 真和志 沖縄工業 那覇商業 沖縄尚学 小 禄 首里東 南部農林 南風原 開 邦	上原 健吾 (那覇商業) 平良 栄二 (小 禄)
⑥ 南部地区 (10校)	知念 糸 満 那覇西 豊見城 沖縄水産 南部工業 豊見城南 向 陽 南部商業 久米島 KBC高等学院	藤木 淳平 (糸 満) 糸数 辰信 (豊見城南)
⑦ 宮古地区 (3校)	宮 古 宮古工業 宮古総合実業	當銘 樹 (宮 古)
⑧ 八重山地区 (3校)	八重山 八重農林 八重山商工	比嘉 繁遵 (八 重 山)

11. 連合チームの地区大会について
 地区をまたがる連合(「レンタル」除く)については、
原則として部員数の多い学校が所属する地区(地区大会)に出場することとする。

12. 審判責任者

- ①多嘉山 太 (浦添商業高等学校) ②島袋 俊哉 (那覇西高等学校)
 ③山城 和也 (豊見城南高等学校) ④大城 康弘 (沖縄カトリック高等学校)

第 52 回沖繩県高等学校野球新人大会 細則

1. 試合規則は、2025 年公認野球規則と大会特別規定により運営する。
2. 選手資格は、令和 7 年 4 月 2 日現在で満 18 才（平成 19 年＝2007 年 4 月 2 日以降の出生者）以下の者。
3. 大会期間中の不測の負傷または疾病に対して、主催者は応急の手当を施す他は責任を負わない。
4. 第 1 試合の出場チームは、試合開始 9 0 分前には所定の球場に到着し、大会本部よりオーダー用紙を受け取り記入後、直ちに提出すること。その後放送により責任教師・主将は本部役員・審判委員の指示に従って攻守を決める。（オーダー用紙交換は試合開始 5 0 分前に行なう。）
5. 第 2 試合目以降の出場チームは、球場到着後、大会本部でオーダー用紙を受け取り、4 回終了までに大会本部に提出すること。オーダー用紙交換は 5 回終了後に行なう（放送を行なう）。責任教師と主将は本部役員・審判委員の指示に従って攻守を決める。選手はいつでも試合ができるよう準備をしておくこと。
6. ベンチサイドは、抽選番号の若いチームを一塁側とする。
ベンチには登録の責任教師 1 名、副責任教師 1 名、監督 1 名、選手 2 0 名、記録員 1 名の計 2 4 名以内とする。
7. **責任教師か副責任教師がノックした後は、ユニフォームのままでもベンチ入り可とする。**
8. 試合前のシートノックは 5 分間または行わない事も選択できる。ノック時の補助選手は 5 名までとし、必ずヘルメットを着用すること。 又、登録メンバー以外は、ノックを受けたり守備に入ってはいけない。
9. シートノック時のノッカーは、選手と同じユニフォームを着用し、黒または白のスパイクおよびシューズとする。補助選手も試合用ユニフォームを着用すること。
10. 記録員は男女にかかわらず、自校の制服を着用すること。複数の記録員のいる場合は毎試合代わってもよい。
11. 打者・走者ともに危険防止のため、必ず SG マーク（経産省認可）両耳付きヘルメットを着用する。
12. 捕手は防護用ヘルメット（SG マーク付）とスロートガード（のど部分の防護具）、カップを必ず使用すること。また、練習時を含め、捕手は座って投球を受けるときは必ず捕手用具一式を着用すること。
13. 試合中、攻守交代は全力疾走に徹すること。
14. 攻撃側の選手は、次打者・ランナーコーチ以外はベンチから出ないこと。次打者席には、必ず次打者が入り、投手が投球姿勢に入ったら素振りを止める。危険防止のため、グラウンド内にいる全ての選手（特に次打者、ブルペンの選手）は投手が投手板に位置したならばプレイに注目すること。
15. ベンチ内のメガホンは 1 個のみとする （監督のみ使用）。
16. グラウンドに入ってアップを開始するときは、試合用のユニフォームを着用すること。ただし、第 1 試合目のチームに関しては、ランニングまでは、チーム統一のシャツを認める。キャッチボールからは、ユニフォームとする。 人員は 25 名以内とする。 **※2 試合目以降のスパイク着用時期に関しては、球場で異なるので注意してください。**
17. 危険防止のため、球場内におけるフリーバッティング、ハーフバッティングは禁止する。また、球場内においてのウォーミングアップ及びランニングで外野の芝生を使用する際は、アップシューズを使用すること。
18. 試合中、ベンチ前でのキャッチボールは 2 組（4 人）まで並列とし、ゴロの捕球練習は認めない。
19. 野球用具の使用については、日本高等学校野球連盟の用具使用制限に適合したものを使用すること。
20. **5 回終了後のグラウンド整備は、5 分間程度とする。（熱中症対策含む）**
21. **タイブレークの場合は、10 回終了後グラウンド整備に入り、5 分間程度とする。（熱中症対策含む）**
《応援団について（中央大会）》※地区大会でも下記に準じ、会場等に応じて行ってください。
 1. 応援は高校野球にふさわしいものであること。品位と節度をもったものでなければならない。
 2. 大会期間中の応援団の行動は、責任教師がその責任を負う。
 3. 手指消毒など、基本的な感染拡大防止に努めること。
 4. ブラスバンド以外の太鼓については、洋太鼓・和太鼓いずれかを 1 個とする。
 5. 応援団は、試合中は場内の整理と感染拡大防止、試合終了後はスタンドの清掃に協力する。
 6. 個人名や校名を記入したノボリ等、テープ・紙ふぶき等は禁止。
 7. 応援団の校章旗・横断幕等は指定場所に掲げること。

大会特別規定

- シートノックは試合前、大会本部の指示に従い行うこと。**制限時間は5分間または行わない事も選択できる。**但し、時間の都合で、短縮または行わないこともある。シートノックの補助員5名以内と補助ノッカー(登録外)1名を認める。
- 本大会は**タイブレーク制度**を採用する。タイブレークは10回、無死1塁・2塁からとし、打順は9回終了時の打順を引き継ぐものとする。(決勝戦もタイブレークを適用する)
- 1週間500球以内の投球とする。ただし、各地区大会および全国選手権大会での投球数は含まない。
- 本大会では、得点差によるコールドゲームを次のとおり定める。
 - 5回以降10点以上、7回以降7点以上の得点差が生じた場合。
 - 決勝戦では、コールドゲームを適用しない。
- 降雨中断後、30分毎に判断し、グラウンド整備を行ない90分をめぐりに試合続行が可能な場合は再開し、不可能と判断した場合は、**審判委員が当該試合の当日の試合の打ち切りを命じ、継続試合とする。**継続試合の日程や球場については、主催者が決定する。
- 最終試合の開始時刻は日没2時間30分以前とするが、当日の天候その他を考慮して主催者が決定する。また、日没15分前からは新しいイニングに入らない。日没、その他の事情で試合の続行が不可能になった場合は、**審判委員が当該試合の当日の試合の打ち切りを命じ、継続試合とする。**継続試合の日程や球場については、主催者が決定する。

※継続試合については決勝戦でも適応する。またその詳細は別途定める。
- 試合中、攻撃側選手に不慮の事故などが起き、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判委員が判断した時は、相手チームに事情を説明し臨時の代走者を許可することができる。この代走者は試合に出場している選手に限られ、チームに指名権はない。
 - 臨時代走はその代走者がアウトになるか、得点するか、またはイニングが終了するまで継続する。ただし、塁上にいる臨時代走者が次打者となるケースにおいては、その臨時代走者に代えて打撃を完了した直後の者を新たな臨時代走者とする。
 - 打者が死球などで負傷した場合
投手を除いた選手のうち、打撃を完了した直後の者とする。
 - 塁上の走者が負傷した場合
投手を除いた選手のうち、その時の打者を除く打撃を完了した直後の者とする。(参考) 臨時代走者の記録上の取り扱いは、盗塁、得点、残塁などすべてもとの走者の記録として扱われる。
- 審判委員の判定には、絶対に抗議することはできない。但し、ルール適用の過ちがおきた場合は申し出ることができる。疑義を申し出る場合は主将、伝令、または当該選手に限る。
- 審判委員へのアピールは、必ず主将及びそのプレーの当事者が行なうこと。
- 試合中トラブルが生じ、試合続行が不可能な場合は、トラブルを引き起こしたチームを敗者とし、没収試合とする。
- 打者がバッターボックスに入る時や投手が審判委員からボールを受け取る際は、帽子を取って礼をする必要はない。
- 試合中は、ベンチ入りできない者(登録選手以外の部員・OB・保護者等)をベンチや選手控え室に出入りさせたり、ベンチ周辺に近づけない。
- 試合中ベンチ内での携帯電話、タブレット、パソコン、スマートウォッチなど送信機能のある電子機器の使用を禁止する。スマートウォッチに関しては、外してもらう。**
- 走者やベースコーチ等が捕手のサインを見て、声やジェスチャーで打者にコースや球種を教える等の行為を禁止する。
- サイズの大きい走者用手袋の使用とグラブの手首へのリストバンド装着は認めない。